



地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。今号では、関東地域ブロックおよび中部地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

関東地域ブロックから

関東地域ブロック担当理事
荒井 浩道 (駒澤大学)

関東地域ブロック(略称:関東部会)の特徴は、なんといっても規模が大きいことです。北海道、東北、関東、中部、関西、中国・四国、九州と7つある地域ブロックのなかで最も会員数の多い「大規模地域ブロック」です。大所帯ならではの活動の難しさはありますが、スケールメリットを活かしたダイナミックな取り組みも可能であると考えています。

関東地域ブロックのメインイベントは、研究大会です。例年、3月上旬に開催されています。昨年度は、2021年3月6日(土)に開催されました。大会テーマは、「社会福祉学教育と専門職養成」です。このテーマは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大により残念ながら中止となった2019年度の研究大会のテーマを引き継いだものです。コロナ禍が長期化するなか、社会福祉学の研究発展を停滞させてはならないという思いから、オンライン(Zoom)で開催することになりました。

研究大会の午前中は、自由研究報告が行われました。6分科会に分かれて、21演題の報告が行われました。関東地域ブロックの自由研究報告は、伝統的に、①研究報告部門(報告30分、質疑応答20分)、②萌芽的研究報告部門(報告15分、質疑応答10分)、③実践報告部門(報告15分、質疑応答10分)という3種類の部門に分かれています。報告者は、研究内容や研究の進捗状況に合わせて部門を選び、エントリーすることになります。この3種類の部門のなかでも特徴的なのは、研究報告部門です。研究報告部門では、1演題につき、報告時間30分、質疑応答20分と比較的長い時間が確保されています。報告者にとっては、自身の研究について詳しく報告できる数少ない機会であり、所属の異なる複数の研究者から質問を受ける貴重な場となっています。こうした自由研究報告のあり方は、地域ブロックならではのものといえるでしょう。

研究大会の午後は、ワークショップ、基調講演、シンポジウムと盛りだくさんの内容で行いました。ワークショップでは、鈴木浩之先生(立正大学、2020年度日本社会福祉学会学会賞・学術賞受賞者)にご登壇いただき、「実践を研究としてまとめる方法」をテーマに開催されました。基調講演では、白

澤政和先生(国際医療福祉大学大学院)にご登壇いただき、大会テーマである「社会福祉学教育と専門職養成」というご講演をいただきました。シンポジウムでは、坪洋一先生(東京都立大学)「社会福祉学教育の今日的課題—原理・政策系科目を中心に」、高良麻子先生(法政大学)「ソーシャルワーク専門職養成教育のあり方—講義-演習-実習の循環に注目して」、福島喜代子先生(ルーテル学院大学)「大学院での社会福祉学教育と専門職養成—現場で働き始めてからの学びのニーズに応えるソーシャルワーク教育」、丸山晃先生(立教大学)「福祉専門職の専門性と社会福祉学教育」、と各シンポジストに話題提供をいただき、活発な議論が行われました。

そして、研究大会終了後に行われた総会では、関東地域ブロック奨励賞の授賞式が行われました。関東地域ブロックでは、2020年度より、機関誌『社会福祉学評論』に掲載された論文を対象に奨励賞の審査を行い、優秀な論文執筆者を表彰することになりました。第1回である2020年度は、2名の受賞者を出すことができました。受賞者、審査対象論文は以下のとおりです。

米澤大輔氏(新潟大学)「障害者の地域生活を支える 24 時間相談支援の生成プロセスに関する研究」(『社会福祉学評論』20: 23-32、2019)

大山典宏氏(高千穂大学)「生活保護制度の運営管理における基準の明確化と手続的権利の保障—熊本県及び熊本市の業務マニュアルからの考察」(『社会福祉学評論』20: 33-44、2019)

関東地域ブロックでは、機関誌『社会福祉学評論』の編集、発行に力を入れています。『社会福祉学評論』は他誌に先駆けて、電子ジャーナル化を行いました。福祉系の専門誌において、『社会福祉学評論』に投稿された論文が引用されることも増えてきました。編集システムも整備され、比較的短期間で査読を行うことが可能となっております。関東地域ブロックに所属されている方は、ぜひ研究成果をご投稿いただければ幸いです。

中部地域ブロックから

中部地域ブロック担当理事
谷口 由希子(名古屋市立大学)

中部地域ブロックの主な活動は、①研究例会の開催、②機関誌『中部社会福祉学研究』の発行、③大学院生・若手研究者のための勉強会の開催の3つです。

研究例会は、毎年1回、春の研究例会として開催しています。ブロック内会員による自由研究発表のほか、大学院生・若手研究者のための勉強会や、その時どきのトピックスをテーマにしたシンポジウムを開催しています。2021年度は、4月17日にZoomによるオンライン配信システムで研究例会を開催しました。

今年度は、「見えない『助けて』と社会福祉実践」をテーマとしたシンポジウムを企画しZoomウェビナーにて配信しました。はじめに竹端寛さん(兵庫県立大学)に「見えない『助けて』と社会福祉」と

題した基調講演をいただいたあと、パネルディスカッションを行いました。パネリストは、竹内伸全さん（株式会社フレーバー）に「高齢者領域における家族支援の現場から」、粕田陽子さん（弁護士）に「被虐待児童虐待への支援の現場から」、山本綾子さん（三重県津保健所）に「精神保健福祉の現場から」と題して、ご報告いただきました。報告後は、登壇者および指定討論者の大谷京子さん（日本福祉大学）とパネリストによる活発な議論が行われ、参加者からの質疑応答がありました。最後にコーディネーターの柴田謙治さん（金城学院大学）による議論の総括が行われました。

中部地域ブロックでは、学会の社会貢献および学びの還元の一環としてシンポジウムを会員以外にも広く参加していただくことを目指しています。シンポジウムには、社会福祉現場で働く方、支援に関わっている方を中心とし、会員を合わせて150名あまりの参加がありました。

春の研究例会では、このシンポジウムのほかに、自由研究発表が2本発表され、「修士課程修了後のキャリア形成」をテーマにした、大学院生・若手研究者のための勉強会も開催しました。

なお、機関誌『中部社会福祉学研究』は、3月に第12号を刊行しました。学会ウェブサイトの中部地域ブロックのページからダウンロードできますので、ぜひご覧ください。